

NPO 法人 日本ビオトープ協会
第 16 回顕彰受賞ビオトープの紹介

◇顕彰委員会委員長の講評・報告

『ビオトープフォーラム in 仙台 2024』2024 年 6 月 14 日、東北大学 青葉山新キャンパス 環境科学研究科 本館 2 階 大講義室にて

第 16 回顕彰を受賞されました団体の方々にお祝い申し上げます。

去る 4 月 16 日に顕彰委員会が開催され、全国から 5 団体が選出されました。いずれも、多様なステークホルダーの協力によるビオトープの造成に始まり、維持管理、環境教育、地域貢献など優れた取り組みであり、高く評価されました。

◎ビオトープ大賞を受賞されました、静岡県「あさはた緑地ビオトープ」は、静岡市麻機遊水地内に設けられた官設民営の「自然体験型ビオトープ」です。市民の憩いの場、湿地帯の特性を生かした体験農園、生物多様性に富む自然湿地の回復、環境学習・農業体験の実施などが行われています。地域住民、学校、ボランティア、ビオトープ専門家などの協働で維持管理がなされており、高く評価されました。

◎審査委員長賞に選定された、宮城県「仙台・みどりの杜ビオトープ」は、東日本大震災津波被災地の復興事業としてビオトープを造成し、自然物中心に、自然の回復に努めています。地域住民と協力し、固有種の井土メダカ・ミズアオイの保全に務め、毎月自然観察会を開催し、高く評価されました。

◎技術特別賞受賞の、愛知県「調整池のビオトープ」は、近自然工法による調整池を中心に整備された、生態系ネットワークの拠点ともなる公共ビオトープです。整備後 4 年を経過し、水生生物の生育、希少な生物の生息場として市民の憩いの場となっており、高く評価されました。

◎学校ビオトープ特別賞に選定された、滋賀県「老蘇小学校ビオトープ」は、設置後 22 年の学校ビオトープ。学校と地域の人々との協働で、維持管理、自然観察会などを行っており、地域交流・学びの場となっています。また、失われる地元の樹木、湿地の自生植物を移植するプロジェクトでもあり、この長期にわたる活動が高く評価されました。

◎環境教育賞に選定された、広島県「広島県立湯来南高等学校 ビオトープ」は、自然に恵まれた小規模高校内に整備されたビオトープです。持続的な環境教育の場となることを目指し、オオサンショウオ、ジュンサイ、モリアオガエルなどの観察、湿地の自然性の維持管理を生徒中心で行っており、高く評価されました。

以上 5 件表彰させていただきましたが、各団体におかれましては、ビオトープの普及啓蒙、環境教育、地域活性化につながる活動を継続していただくようお願い申し上げます。

（協会顕彰委員長 鈴木邦雄代表顧問）



※フォーラムの顕彰事例発表「あさはた緑地ビオトープ」「仙台・みどりの杜ビオトープ」は、後日 YouTube で映像を公開する予定です。詳細は、協会 WEB ページに UP いたします。 2024 年 6 月 25 日

◇ピオトープ大賞

【下記各顕彰書類より転記】

名称	あさはた緑地ピオトープ
受賞者	一般社団法人グリーンパークあさはた
<p>【テーマ・概要】</p> <p>静岡市が麻機遊水地内に「自然とふれあう体験型の都市緑地」というテーマで設置した官設民営の緑地公園。生物多様性を育む湿地帯にある特性を生かして、プレイエリアの原っぱの周りは土側溝で囲み、農園エリアでは地域特産のれんこんや、稲作を行う一方で休耕地を設けて植物の繁茂を促すことで、希少動物のカヤネズミをはじめ多様な動植物の生息域としている。また、湿地エリアではミズアオイやオニバスといった希少種に適した水深の調整、攪乱などがされている。運営においては「未来につながる緑のあそび場」をコンセプトに、環境学習や農業体験を実施。園内の動植物の塗り絵やザリガニ釣りなど、楽しみながら生態系等を学べる工夫をしている。</p>	
<p>【整備方針と管理手法】</p> <p>公園利用者の快適性・安全性と、公園の魅力でもある生物多様性の維持・向上のバランスに注意を払っている。園内の除草では遊ぶスペースは確保しつつ、意図的な刈り残し箇所を多数設け、また季節ごとに移動させることで多様な植生のバリエーションを生んでいる。刈草は剪定枝で作ったバイオネストに集積して生物多様性の一助としているほか、堆肥化して農園に利用することで循環させている。また、農園や水辺の管理では自治会、地区社協、近隣の学校などにも協力いただき、積極的な地域連携をおこなっている。湿地帯の整備ではボランティアメンバーと選択除草や水流、水深の調整など多様な地形づくりを試しながら実践している。</p>	
	

◇審査委員長賞

名称	仙台・みどりの杜ピオトープ
受賞者	せんだい農業園芸センター みどりの杜、株式会社日比谷アメニス 仙台支店、日比谷アメニス・日比谷花壇共同事業体（仙台市）
<p>【テーマ・概要】</p> <p>～復興ピオトープ（みどりの杜ピオトープ）～</p> <p>当地は、13年前の「東日本大震災津波被災地」であり、自然の驚異を体感させられた地である。8年前から、復興事業（PPP事業）として当園の再興に取り組むにあたり、自然災害で起こった「改変」から、「自然回復力」が、どう進んでいくかを「遷移」も含め、確認・育成していく場として「ピオトープ」を新規創出した。</p>	
<p>【整備方針と管理手法】</p> <p>○整備方針：この公園エリア再整備にあたり①既存施設との連携②自然物での造形③バリアフリーを基本としている。</p> <p>ピオトープでは、コンクリート躯体を避けるため、防水シート張り。水については、当初雨水（屋根からの）利用を考えていたが、雨樋がなく集水が難しいため、周囲緑地からの表面水および補水（水道水・井戸水）にて、水量を確保している。</p> <p>○管理手法：基本的には手を入れず、自然に任せている。清掃については随時実施し、5年に1度程度「泥上げを」を実施し、水深を確保するよう努めている。</p> <p>○利活用：当ピオトープでは津波被災時絶滅状態となる固有種である「井土メダカ」の育成・保全の場とし、地域住民と協力している。また、毎月開催している「自然観察会」の場として、動植物の生態観察にも利活用している。</p>	
	



「あさはた緑地ピオトープ」より



「広島県立湯来南高等学校ピオトープ」より

◇技術特別賞

名 称	調整池のピオトープ
受賞者	近自然技術研究所、オリエンタルコンサルタント、ヤハギ緑化株式会社
<p>【テーマ・概要】 長久手市は2011年3月に「長久手市環境基本計画」を策定。2012年8月に「公園西駅周辺環境配慮型まちづくり基本構想」、2013年5月に「公園西駅周辺環境配慮型まちづくり整備計画」を策定しました。「人・コミュニティ・自然がつながる持続可能で豊かな暮らしを基本理念として、自然環境の豊かさを高め、低炭素社会への転換を進めることなどを方向性としています。」 中でも愛・地球博記念公園の西側一帯の公園西駅（磁気浮上式鉄道）周辺は、商業ゾーンに世界最大の家具量販店IKEA（イケア）の誘致と、住宅ゾーンの宅地開発などで多くの人々が利用する整備計画の拠点となる地域です。そんな公園西駅周辺は近自然工法を主流とした計画で、人や生物に優しい憩いの場所になるように駅前広場の整備とし、「近自然工法のコンセプト」が考慮された近自然公園や近自然調整池（2号調整池）が設計されました。</p>	
<p>【整備方針と管理手法】 近自然調整池（2号調整池）は、住宅地のある公園西駅の南東に位置し、愛・地球博記念公園や三ヶ峰丘陵などの自然と香流川を結ぶ拠点となります。 施工方法については直線的・人工的な景観のコンクリートブロック積みの護岸は、天端に自然石で凹凸を作り直線的な天端に変化を付け、護岸法尻には寄せ土、置石によりアンジュレーションを付けて、違和感のあるコンクリートブロックを隠すと共に、自然な池形状と水際の多様性を創出した。 高低差のある流入口は分散落差工によりステップ&プールを創出した。池底が平坦な浅い箇所は、現状の湿地状態を活かし、深みや浅瀬など変化のあるエコトーン・ピオトープ空間を創出した。</p>	
	

◇学校ピオトープ特別賞

名 称	老蘇小学校ピオトープ
受賞者	ピオトープ企画委員会、近江八幡市立老蘇小学校、株式会社ラーゴ、大栄土木株式会社
<p>【テーマ・概要】 当ピオトープは平成13年度PTA本部事業として造成工事をスタートした。今年で22年目を迎える。固有の生物や植物などを守り、生き物生息の場所、学習活動の場所、地域交流の場所として親しまれている。講師を招いて自然観察会を実施し、保護者と子どもが一緒になって昆虫や植物について学び合う姿がある。</p>	
<p>【整備方針と管理手法】 平成14年度に立ち上げた老蘇小学校ピオトープ委員会を中心に、地域の方やPTAのOBの方々の協力を得ながら、整備作業を実施した。 圃場整備によって失われる予定であった地域の水路の石組と植生を移設し復元した。 以降、地域の方やPTA、OB、先生、専門家が協力しあい、除草、泥上げ、観察会、モニタリング調査などおこなっている。また、ピオトープではコンサートなども開催され、地域交流の場としても活用されている。</p>	
	

◇環境教育賞

名 称	広島県立湯来南高等学校ピオトープ
受賞者	広島県立湯来南高等学校
<p>【テーマ・概要】 3年前はピオトープの存在自体ほとんど知られておらず、その時はただの水溜りの様にしか見えなかったが、科学部の生徒たちとともに日々汗を流し、ピオトープとその周辺の整備を進めてきた。その結果、ピオトープを拡大化させることができ、モリアオガエルをはじめ、毎年多くの生物を観測できるピオトープが再建できた。</p>	
<p>【整備方針と管理手法】 今回のピオトープの課題として、アオミドロの繁茂、猪や猿に荒らされる被害がある。今後も整備を進め、ホタルの見られるピオトープ、生徒たちの憩いの場となれるピオトープを目指して、科学部の生徒たちを中心に活動していく。具体的には柵を設置したり、カワニナを近隣の川から移入したり、太陽電池で稼働する水流ポンプを利用した噴水を設置するなどして、持続可能なより良いピオトープを完成させたい。</p>	
	